

H O K K A I D O I H O

北海道医報

9

月号

2023.9.1
第1260号



北海道 美の遺産 阿部 貞夫 『くまげらと摩周』 北海道立帯広美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
令和5年9月1日 第1260号

指標／有床診療所について	鈴木 伸和	3
医の倫理綱領		6
速報／令和5年度北海道医師会賞受賞者決定！		7
北海道医師会役員退任のご挨拶		8
北海道医師会役員就任のご挨拶		10
報告／令和5年度医師の勤務環境の整備に関する病院開設者、 病院長・管理者等への講習会	長谷部千登美	16
報告／サイバー事案への対処に関する「北海道医師会と北海道警察の連携に関する覚書」 締結について	橋本 洋一	22
報告／令和4年度地域保健等に関する調査研究助成について		23
生涯教育シリーズXXIV／近年問題になっている新興・再興感染症・One Healthとしての感染症 免疫不全患者の感染症	藤田 崇宏	24
税務相談室／配当所得 確定申告を要しない配当所得等	中村 孝一	27
医師のための法律相談コーナー／医師の働き方改革 ～後編・時間外労働上限規制の内容と必要な手続について～	矢吹 徹雄、高橋 和征	28
北海道医歌人会詠草		30
若手医師コーナー／Spirits 若手医師リレーエッセイ	田中 柚妃	31
会員のひろば	高橋 英俊、竹内 幹夫、齊藤 泰博、末武 敬司、村上 俊也、 中川 学、中村 一博、安田 素次、山内 修、松村 道哉、 後藤 義朗、小林 宣道	32
ポラリスを仰ぐ北の大地から	祁答院尚嗣、中條 俊博	42
大通公園を望む窓辺から	水谷 匡宏、島田 道朗	43
日本医師会生涯教育講座開催情報		44
中央 ⁴⁴ 道南 ⁴⁵ 後志 ⁴⁵ 日胆 ⁴⁵ 空知 ⁴⁶ 道北 ⁴⁶ 北見 ⁴⁶ 道東 ⁴⁶ その他(学会・医会・研究会等) ⁴⁷		
日医認定産業医制度研修会開催一覧		48
訃報		50
新規指定医療機関		50
道医の動き		51
会議室／第9・10回常任理事会		52
売貸医院・医師招聘情報		56
道医師国保の頁		60
季節風／コロナ後の医療体制	橋本 洋一	70
お知らせ		
北海道医師会育児サポート事業のご案内 病児・病後児の預り時に、ぜひご利用ください！ ⁵ ／みんな で乗れば、未来が変わる。考えよう。行動しよう。公共交通の未来。 ⁷ ／医療安全セミナーの開催 ¹³ ／ 電子メールによる会員への情報提供について—メールアドレスの登録— ¹³ ／2024年版医師日記(手帳) の申込み ¹⁴ ／第7回生命を見つめるフォト&エッセイ作品募集 ¹⁵ ／「医師資格証」を持ちましょう ²⁷ ／ 新型コロナウイルス感染症関連情報 ⁴⁷ ／紋別市開業医誘致等助成制度のご案内 ⁴⁹ ／北海道医師会医師キ ャリアサポート相談窓口 ⁵⁰ ／北海道医報年間購読のご案内 ⁵¹ ／北海道医師会ホームページ フォトギャ ラリー 作品募集 ⁶⁴ ／日本医師会作成『心肺蘇生法C A B + Dカード』 ⁵⁵ ／医師招聘に掲載をご検討中 の医療機関の皆様へ ⁵⁹ ／アクションズ若手医師活動報告 投稿大募集!! ⁵⁹ ／会員優待サービスのご案内 ⁶⁸ ／北海道内科医会ならびに日本臨床内科医会入会のご案内 ⁶⁸ ／グループ保険のご案内 ⁶⁹		

北海道医師会会員数 8,125名 (+21) うち日本医師会会員数 5,717名 (+18)

A	2,337名 (+1)	B2	4,639名 (+19)	C2	115名 (-1)
B1	617名 (+1)	C1	87名 (+1)	C3	330名 (±0)

令和5年7月31日現在 () 内前月比

作品紹介

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立帯広美術館
(帯広市緑ヶ丘2番地 0155-22-6963)

あべ さだお
阿部 貞夫 くまげらと摩周

1910(明治43)年～1969(昭和44)年

東京都生まれ。

1958(昭和33)年の作品。木版、紙(37.9×27.0cm)。

1910年東京、日本橋に生まれ、生後まもなく留萌に移住。1930年本郷洋画研究所で洋画を学ぶ。後に版画に転向し独学する。戦後、留萌に戻り製材所に勤めながら版画制作を続ける。1953年釧路に移住。1954年現代版画の第一人者・関野準一郎と、伝統木版・浮世絵の摺り師・平井孝一に版画の指導を受け制作に専念し、画才を大きく開花させた。1957年全道

展初入選。1958年日本版画協会展初入選。1963年同会会員。1966年新世紀美術協会展で東和賞受賞(会員)。北海道の版画界の先駆的な存在として高く評価された。

抽象化された摩周湖の風景の中に、そこに生息する「くまげら」を愛嬌のある表情で表現している。湖と周囲の山、湖面に映る影を色の面をかたどり、くまげらを囲むように組み立てた斬新な構図である一方、彫り跡や木目など、木版画ならではの温もりのある質感を活かしている。作者は浮世絵に代表される伝統的な多色摺板目木版の技法を用いながら、作者独自の造形手法により、北海道の自然を巧みに表している。